

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実に向けた調査研究成果の概要

「個別最適な学び」の観点から

研究成果報告書
P10、P11

学習の進め方を自ら調整する力と、主体的に学習に取り組む態度を育成する

【指導の個別化】

- ・支援の必要な児童生徒に重点的な指導を行う。
- ・児童生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行う。

【学習の個性化】

- ・児童生徒一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供する。



「協働的な学び」の観点から

研究成果報告書
P12、P13

多様な他者と豊かにかかわりながら問題解決していこうとする態度を育成する

個々の考えやよい点を尊重しながら交流し、自らの知識や技能を組み合わせたり、新たな価値を創造したりしながら解決する「個を生かす協働的な学びの場」を設ける。



一体的な充実に向けた4つの「教師の出番」



出番1 学びがいのある学習課題にする

研究成果報告書
P18、P19

児童生徒が課題を自分事にし、「主体的・対話的」に学習に向かえるように・・・

① 自分事になる学習課題を設定する

深く考え、自ら解決したくなる

集団で解決する必要がある

の2つの要件から、学習内容や児童生徒の実態に応じた適切な学習課題を設定する。

② 見通しをもつ活動を充実する

学習対象との出会わせ方を工夫し、児童生徒一人一人が、学習の目的やゴールを明確にし、解決に向けた見通しをもつことができるようにしかける。



出番2 自己選択・自己決定のある学習にする

研究成果報告書
P20、P21

課題を自分事にした児童生徒が、課題解決に向かって主体的に学習を進めていくことができるように・・・

① 学びに関する選択肢を示し、一人一人が自分の状況に応じて課題解決に取り組むことができる学習環境を整える

- ・学習教材の選択
- ・解決方法の選択
- ・表現方法の選択
- ・道具の選択
- ・学習形態の選択
- ・学ぶペースの選択 など

② 何をどこまで委ねるかを見極め、見取ったことをフィードバックする



出番3 必要感のある協働的な学びの場をつくる

研究成果報告書
P22、P23

個を生かす協働的な学びの場となるように・・・

① 意図的、計画的に協働的な学びの場を位置づける

- (ア) 個々の課題に応じた小規模集団での協働的な学びの場
- (イ) 教室の中の多様性を生かし、学びを深めるための協働的な学びの場

② 児童生徒同士の交流によって学びが深まっていくように、ファシリテートする

- ・他者の考えと自分の考えの違いや多様な考えを意識できるようにする
- ・話し合う目的や視点を明確にする
- ・思考を可視化し、比較したり関連付けたりできるようにする
- ・問い返しのある学び合いを行えるようにする
- ・目的に合った小集団で学ぶことができるようにする など

- ・児童生徒に「語らせ」、教師が「つなぐ」



出番4 意味のある振り返りにする

研究成果報告書
P24

児童生徒が学習の過程を自覚し、次の学びにつなぐことができるように・・・

① 見通しや探究の場面で、立ち止まって考える場を設ける

② 振り返りの視点から、自分の学びを価値付ける場を設ける

- 学習内容
- 学習過程（学び方）
- 自己の変容・課題の発見



多様な児童生徒の可能性を広げるICTの活用



研究成果報告書
P14、P15

○自由に必要な情報にアクセス

○学習における個々の困難さを軽減

○効率よく他者とつながる